

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議の概要

長野県リニア整備推進局

1 日 時

平成 28 年 5 月 18 日（水） 午後 2 時 30 分から 3 時 50 分まで

2 場 所

県飯田合同庁舎 講堂

（サブ会場：JRセントラルタワーズ 39 階応接室（名古屋市））

3 会議内容

(1) 総括アドバイザー（（一財）日本総合研究所理事長 寺島実郎氏）講話

- スーパーメガリージョン形成に当たっては、中間駅によるインパクトが重要。
- （リニアを含めた）今後の国土形成を考えていくに当たっては、「異次元の高齢化」を視界に入れないといけない。
- リニアの開通に向けては二次交通が課題。より細かな足回りの仕組みが必要となってくる。海外では、「ウーバー」という自動車を共有し効率的に利用する仕組みがある。二次交通にもこのような「柔らかい交通」のような仕組みが求められる。
- 広域観光については、「観光を産業化する」必要があるが、日本はこの点で遅れている。日本のインバウンドは一定の顧客のみを対象としている。中国の爆買いに目がいくが、望まれるのはハイエンドのリピーターである。
- リニアによって、広域でどのようなツーリズムを構築するか。景勝地の優位性を活かす、食と農によるアグリフードツーリズムなどインセンティブを与えた基軸が必要。
- 従前の温泉観光ビジネスだけではリニア中間駅のインパクトは活かしきれない。十分に活かすためには、いわゆる「キラーコンテンツ」が求められる。
- 特に観光にとってのキラーコンテンツを生み出すには、先進的な試みと食・農などのポテンシャルとの組み合わせが必要。さらに、具体的な事業計画につながるプロジェクト化が大事な点である。

(2) 意見交換での主な発言要旨

ア 阿部知事（座長）

- 前回会議では（リニアバレー）構想の実現に向け、**「広域観光」「二次交通」「まちづくり」に関する部会を設置することを確認した。部会は各分野の有識者によって構成し、各テーマが関連するため一括して検討を進める。**
- 具体的に何をやるか、有識者の意見を反映させ、民間プロジェクトに落とし込む方向で考えたい。
- **検討成果については、飯田市の設置する検討会議でも考慮をいただければ幸い。**
- キラーコンテンツを作るためには、市町村の体力差も考慮し、地域全体で取り組んでいくことが大切。

イ 出席者

- 部会設置はよい。まずはテーマに関する議論をスタートすること。
- **自治体会議と飯田市の検討会議で方向性を合わせてやっていくのが望ましい。**市町村の境界を越えてやっていき、しっかり議論を重ねて方向性を出していければよい。
- 気楽に動けるための二次交通は大切。自動運転やウーバーの仕組みなど。（実現に向けては）先を見据えた計画が必要。
- 駅の機能は調和のとれたものを求めたい。産業の育成と調和をしてくことも大切。
- 県においてもリニア関連道路の整備を進めている。伊那谷の多くが東京の1時間30分圏内に入る。このため、自治体会議での広域的な視点を踏まえ、飯田市が検討を進めている駅周辺施設については、具体的な規模などの議論を進めていくことが大切。
- 有識者による検討を受け、具体的なプロジェクトをどうしていくのか。やり方も検討し、その後の段階まで明確にしてほしい。
- 自治体の規模も大小あるため、具体化にあたっては事務の負担に配慮されたい。
- 検討をスピードアップしないといけない。会議外でも市町村側から提案していくかたちでもよいではないか。
- 飯田線乗換新駅について、事業主体などはどうするのか。前へ進めるため、そろそろ具体的な検討に移っていかないといけない。